

ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティー誌

4

No. 230
Apr. 2017



特集：『IPSの魅力を伝えたい！ 可能性を信じて夢や希望を応援！』
IPS全国研修岡山大会開催報告② 分科会＆参加講師感想特集



IPS全国研修岡山大会開催報告② 分科会＆参加講師感想特集

IPSの魅力を伝えたい！② 可能性を信じて夢や希望を応援！

平成29年3月4日、第5回IPS全国研修岡山大会が、川崎医療福祉大学にて開催されました。当日は、大会スタッフを含め、約300名の県内外からの参加者が集まり、IPSの魅力や支援方法を共有することができました。今月号では、先月号に続き大会の分科会報告と参加講師の感想などをご紹介していきます。

治療としてのIPS

精神科病院デイケアでのIPS導入によりスタッフの意識が「就労＝リスク」から「就労（継続）する為に、必要なことは何か」に変化が起こったこと、病院内での関わりだけで得られる情報から、アウトリーチすることで得られるることの重要性に気づいたこと、また、『就労することは可能』という認識が他職種に広がったことで病院全体が活性化されたことの報告がありました。

参加者からは、「実際に当事者の話を聞くことで分かりやすく理解することができた」「病院での取り組みが広がる」とを期待するなどの意見があり、たくさんの気づきをもたらす分科会となりました。

分科会1

分科会①では「治療としてのIPS」というテーマで五六名の参加がありました。この分科会では、求職者がIPSプログラムに参加するタイミング、多職種によるチームアプローチ、IPSを導入したこと組織にもたらした変化をキーワードに、IPSの概要、精神科病院デイケアでのIPS実践報告およびIPS利用者の声を紹介し、最後に会場とのディスカッションを行いました。



正しいストレングスマodel

分科会2

分科会②では「正しいストレングスマodel」と題して、講義と模擬グループ・バイズを通して、ストレングスマodelの実践について学びました。山口先生の講義では、現在ストレングスマodelという言葉が独り歩きしており、正しい実践を行わなければ効果が上がらないとし、正しいストレングスマodelによる支援の在り方についてお話されました。ストレングスマodelとは、単純に「その人のよいところを見つける支援」ではなく、利用者との関係性の構築、地域資源の開拓などを用いて利用者の「願い・希望」を応援する支援のことであり、利用者の希望を引き出すためには、まずは関係性を作らなければいけません。その方法をモデル化したものがストレングスマodelということです。

模擬グループ・バイズでは、実際に支援にあたっているケースを用いて、受講者の方から参加者を募り行いました。グループ・バイズは支援者のストレングスマodelを発見する力を高める目的として行われます。参加者からはストレングスマodelを活かした様々なか支援に関する意見が次々と飛び出しました。

動機づけ面接のいろは



分科会③の「動機づけ面接」では、支援者が「利用者の行動を変える」ではなく「利用者が自分で変わらうとする」ことを支援し、更に「変わろう」と思えるには希望を持つことが重要であることを確認しました。そのために必要な面接のスピリットや技術のお話を頂き、実際に参加者同士で「動機づけ面接（M-I）」のグループワークを四人一組で行いました。必要な技術としては①利用者が「変わろう」と思えるようになるようやりとりができること。②「変わろう」と思ったときにそれが実現できるよう、行動の変化を支える技術をもつていてことです。普段から訓練することの重要性を実感し、実践で活かせる実りある分科会となりました。

分科会3

職場開拓のスキル

分科会④では、就労支援の中でも特に「IPS的な職場開拓」についての講義の後、参加者全員でSSTを行いました。「IPS的な職場開拓」とは、本人の興味や希望に基づいて、本人の力が發揮できる職場を探すことであり、現在ある求人に本人を当てはめていくことではなりません。その為には丁寧なアセスメントが必要であり、本人のストレングス（強み）をよく知った上で探すことが重要です。「障害がある方ですが、できる仕事ありませんか？」ではなく、「こういう特徴の方がいます。御社のこういう仕事に十分な力を発揮できます。」というように踏み込んでいく、それが「IPS的な職場開拓」ということでした。後半のSSTでは、「飛び込みで職場開拓する場合」という参加者からの課題を基に全員で検討しました。現在やっている方法について、良かった点、更に良くなるアイデアを出し合って演習しました。良い印象で次につなげることができたか等、具体的なアイデアを出し合い、参加者それぞれの立場で採用できる案を持ち帰ることができました。

分科会④では、就労支援の中でも特に「IPS的な職場開拓」とは、本人の興味や希望に基づいて、本人の力が發揮できる職場を探すことであり、現在ある求人に本人を当てはめていくことではなりません。その為には丁寧なアセスメントが必要であり、本人のストレングス（強み）をよく知った上で探すことが重要です。「障害がある方ですが、できる仕事ありませんか？」ではなく、「こういう特徴の方がいます。御社のこういう仕事に十分な力を発揮できます。」というように踏み込んでいく、それが「IPS的な職場開拓」ということでした。後半のSSTでは、「飛び込みで職場開拓する場合」という参加者からの課題を基に全員で検討しました。現在やっている方法について、良かった点、更に良くなるアイデアを出し合って演習しました。良い印象で次につなげることができたか等、具体的なアイデアを出し合い、参加者それぞれの立場で採用できる案を持ち帰ることができました。

分科会4

発達障害とIPS



分科会⑤では、IPSの八つの原則やキー・コンセプトに照らし合わせながら、「IPSは、発達障害の方と同じように効果があるのだろうか？」という疑問について、会場との共有が図られました。特に、「迅速な就労支援サービスの提供」について焦点が当たられ、柴田先生から「精神障害の方と発達障害の方とは違うのではないか？訓練などで就活して良いのか？」と

いう声が多く聞かれるが、適応障害がなぜ起きているのか、社会性を身に着けるための有効な支援が提供できるのかどうか、それがあるのであれば時間をかける意味がある。」というお話がありました。発達障害とIPSとの関係性を通じて、改めてIPSの理解を深めることが出来ました。

分科会5

定着・フォローアップについて

分科会⑥は、「定着・フォローアップについて」というテーマで三十名の参加がありました。ビルドの就労支援について、事例も交えながら、定着・フォローアップを中心にお話し頂きました。定着支援では、『ルール化せず、臨機応変に』という姿勢で、訪問頻度を決めず、ご本人が相談したいペースに合わせて話を聞き、その方が「困った」「ピンチだ」という時にぱっと動ける体制を作っていました。この事でした。ご本人が納得されるまで話を聞き、薪をくべるようストレングス視点を返し続けている中で、ご本人の不安・愚痴が自信や前向きな気持ちに変わっていく様子が伺え、細やかな支援を心がけておられました。ご本人が働き続けたい気持ちがある限り支援を行い、離職をネガティブに捉えない。「仕事を辞めるのも労働者の権利」、そして「休むこと」の選択肢も伝える。職場もご本人も負担が少なくて済むような効果的な環境調整についてなど、定着支援の実践に活かせるお話もありまし



分科会6

大会講師の感想



西川病院 副院長
林 輝夫 氏



IPSの黎明期を迎えて

第五回 IPS全国研修岡山大会に参加させて頂き、また大会講演の機会を頂き、大変嬉しく思っています。あすなろ福祉会、関係スタッフの皆様には、献身的な大会運営のもと、すばらしい学びの機会を提供頂き、心より感謝申し上げます。参加者の真剣な眼差し、熱心な質問、当事者の暖かい声などに触れ、IPSをさらに深めるエネルギーを頂きました。

IPS大会に参加した感想



西川病院 SIPS
新家 望美氏

今は時間の淘汰の中で必ず残つていいという当たり前の定理でした。私は、IPSの理論、有効性を目の当たりにし、IPSは淘汰の中で残り引き継がれて行く活動だと確信しています。ですから、今最も重要なことは、IPSの将来を愚推することではなく、いかにして早い時期にIPSを大きな潮流にするか、ここに力を結集することだと思います。私たちは今、IPSの眞の黎明期を迎えているのだと思います。（林 輝夫氏）

IPSへの想い

IPS支援は始めたばかりで、まだ手探り状態です。目の前のこと取り組むことに精一杯で正直なところ、IPSはとても素晴らしいものだ！という確信はまだ持てていません。しかし、IPSに出会って、自身の世界が広がり、可能性が広がったことは確かです。「働く」ということ、その先にあるリカバリーを私自身が理解しておくことが大切だと思っています。難しく考え過ぎて悩むこともありますが、これからも切磋琢磨し、IPSを深めていきたいと思います。（新家 望美）

でき、とても有意義な時間が過ごせました。毎日、これでいいのかなと自問自答しながら、取り組んでいます。このような場に参加させていたくことで、自分の支援の振り返りが、このような場に参加させていたくことでも、発表することで、他の精神障がい者の方々に自分の体験が共有出来ることになり、少しでも一般就労へ向けて力になれて、うれしく思いました。発表では、質問の時間が三十分もありました。自分は口下手ですので、質間に瞬時に考えて、答えが出来ませんでした。でも、ほかの講師の方がうまく話させていたので良かったです。できれば質問も何問かは、決められておき、何日もかけても答えを用意して、当日に発表できることになっていたら、自分も、もう少しうまく答えられことが出来たかもしれません。しかし、自分はIPS岡山大会には、午後から参加しましたので、午前の先生方々の講義が聞けませんでした。でも、午後の先生方々の講義が聞けました。自分は、自分が通院している、西川病院で、午前の先生方々の講義が聞けませんでしたが、精神病という、少し偏見がある病気に対し、真剣に一般就労に向けた、勉強会があることを知りました。それと同時に、島根県では、自分が通院している、西川病院しかIPSを取り入れていないので、意外と少ない取り組みだということも分かりました。このIPSという取り組みを、多くの病院が取り入れるようになれば、国の精神障がい者に対する医療費も少なくなると思います。自分の場合、デイケアに行く回数

の今後について多くの実践者はいくらかの不安を抱えていると思います。しかし、私自身はIPSの将来に明るい光を感じています。私は当分研究で過ごした経験がありますが、そこで学んだことは、生命活動において、理にかなつた有効な活動・機

今回シンポジストの依頼を頂いたとき、IPS支援を始めて一年足らずなのに、全国の皆さんのお話をすることに正直戸惑いました。しかし、開催地である岡山県とは同じ中国地方でということもあり、少しでもお役に立てたらということ、私も勉強をさせていただこうという気持ちで、参加をさせていただきました。全国各地から、同じ想いを持った同志が集まり、ディスカッション



森木 裕一氏

IPS大会に参加した感想

I PS大会に参加した感想は、自分のような、一人の精神障がい者の経験でも、発表することで、他の精神障がい者の方々に自分の体験が共有出来ることになり、少しでも一般就労へ向けて力になれて、うれしく思いました。発表では、質問の時間が三十分もありました。自分は口下手ですので、質間に瞬時に考えて、答えが出来ませんでした。でも、ほかの講師の方がうまく話させていたので良かったです。できれば質問も何問かは、決められておき、何日もかけても答えを用意して、当日に発表できることになっていたら、自分も、もう少しうまく答えられことが出来たかもしれません。しかし、自分はIPS岡山大会には、午後から参加しましたので、午前の先生方々の講義が聞けませんでした。でも、午後の先生方々の講義が聞けました。自分は、自分が通院している、西川病院しかIPSを取り入れていないので、意外と少ない取り組みだということも分かりました。このIPSという取り組みを、多くの病院が取り入れるようになれば、国の精神障がい者に対する医療費も少なくなると思いま

も少なくなりました。

IPSへの想いは

IPsを知ったときに、スタッフの人に説明をうけ、精神障がい者であつても、何年も入院歴があつても、働くたいという、意志さえあれば、職業を問わず、就職活動ができるということに大変うれしく思いました。私は今まで、就労支援B型事業所で、タオルたたみと魚のトロ箱を作ることをやつてきました。中学校のときに、私は肉体労働は無理だから、デスクワークの職業に就きたいと思つていました。運悪く、大学三年生で統合失调症になり、三年近く休学して卒業しました。精神病で三年も休学してしまふと、就職先も断られ、結局は、B型事業所での肉体労働になりました。しかし、去年、病院にIPsが出来、デスクワークである事務作業の求人も少ないと聞き、アルバイトで半年ではありますが、夢のデスクワークの仕事に就けました。就労支援B型事業所での仕事は履歴書に書けないらしいですが、今回の、事務の仕事は、やつと履歴書に書ける仕事です。仕事は、少しミスも多いですが、怒鳴られることもなく、こなしています。この調子で安定した生活を送つていきたいと思います。IPsを多くの事業所が取り組み、一人でも

多くの、社会から隔離された患者さんが、社会に参加できることを願っています。
(森木 裕一氏)



桜ヶ丘記念病院 PSW 中原さとみ氏

IPS大会に参加した感想

熱気あふれるIPs大会に参加させていただき、本当にありがとうございました。特に林輝男先生の講演は、壁を乗り越えられる可能性を感じ、興味深く拝聴しました。きっと日本のIPsの発展に繋がることでしょう。林先生の資料によるベルモント州精神保健の変遷をみると、障害者雇用ありきの日本の就労支援の内容は、一九九〇年代ぐらいと思われます。人のキャリアは多様ですから、リカバリーのための一般就労を目指すために、まずは、オリジナルのIPsをもつと深く理解して実践していく必要がありそうです。職場開拓にしても三ステップ、Three Cups of Teaで取り組めば、仲間がさらに増えることでしょう。まだまだこれから私たちがやれることがありそうです。



リカバリーキャラバン隊 堀川正志氏

IPS大会に参加した感想

初めてのIPs全国大会の参加は、とても貴重な経験を積ませていただきました。参加者の皆さん、大会運営

当に多くの方にご参加いただきありがとうございました。
がとうございました。

実践者してのこれまでの経験をいくつかのキーワードをもとにお話をさせていただきました。中でも今回、改めて考えさせられたのは、患者さんがIPsに参加するタイミングです。IPsでは、働くことを希望しない患者さんに対しても意欲や興味を確認し続けていくことが含まれています。私は、「このことは、医療機関のスタッフの大きな役割だと考えていましたが、「支援者の熱き思いが、一步を踏み出す原動力となつた」というIPs利用者の体験談から、情熱もまた、新たなステージへの旅立ちを促すことになり得るという大きな気づきを得ることができました。

IPSへの想い

私を含めIPs支援を受け社会復帰できた人間、また社会復帰途上の当事者の方は、まだまだ氷山の一角に過ぎないと思います。「何一つ特別な事はしない、無理はしない」IPsに巡り合い、自分らしくノビノビと日々の生活に取り組んでいることに感謝しております。まだまだ小さいこの流れが、IPs岡山大会からいづか大きな流れになる事を信じ、これからもリカバリーキャラバン隊の一員として、IPs・リカバリーの素晴らしさをお話しできたら幸せだと思います。

分科会を行った感想

「医療と統合の就労支援スペシャルチーム」による「就労とIPs」テーマの発表は、自分自身に多くの気付きをもたらしてくれました。「桜・梅・桃・李」の4名による、それぞれの個性を生かした発表や、質疑応答は生き生きしたものがありました。

分科会を行った感想



IPS大会に参加した感想

スタッフの皆さん、本当にどうもあ

りがとうございました。また、お会いできる日を楽しみにしております。

I PS全国研修岡山大会 開催報告～Part 2～



国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 搾取技術研究室長
山口 創生氏

I PS大会に参加した感想

林先生のI PSに取り組んだ経験と感想は、I PSの要点や歴史、哲学、効果、実装、日本における現実的課題などをバランス良く含んでおり、これまで聞いたI PSの話の中で最も関心深い内容でした。

分科会を行った感想

ストレングスモデルの研修の講師を担当させていただきましたが、基調講演の内容と若干整合性のない部分があり、多少難しい側面もありました。ストレングスモデルはケースマネジメントのお話しですので、就労支援とどのように結びつけるのか、参加者がどのように生きたいのかが少しほんやりしており、今後の課題であると思いました。

I PSへの想い

従来型の準備性の向上を図る支援者の中には「I PSは（利用者）がすぐ辞める支援」というイメージを持っている人もいるようです。しかしながら、様々な研究で明らかになっているように、I PSの就労継続期

期間は従来型の支援と比較し、長いものとなっています。諸々の講演や分科会では、このようなデータを出すのが良いと思いました。

(山口 創生氏)



ジョブサポートセンターあすなろ
畠木 奈津恵

分科会を行った感想

分科会「正しいストレングスモデル」では、I PS実践者の一人として話題提供の機会をいただきました。

講師とは遠く及ばず、私自身も参加者のみなさまと同じように日々の実践を振りかえりながら、なぜ、ストレングスモデルがI PSで取り上げられるのかについて再確認、再認識させていただきました。また、参加者の方々の中には支援者・当事者・ご家族いろいろなお立場の方がおられました。参加型の内容だったこともあってか、みなさんとても熱心にご参加いただけていたようで感謝です。

（畠木 奈津恵氏）

香田 真希子氏



目白大学 准教授
香田 真希子氏



社会生活サポート
センターこみつと
池田 真砂子氏

I PS大会を終えて

本人さんと共に学び、経験し、試行錯誤しながらこれまでの実践ですが、振り返る機会をいたぐと、そもそもなぜ「I PS」に魅力を感じたのか、自分自身の立脚点を確認させていただきました。

また今回は大会運営スタッフとして

当日まで息の付かない日々でした。が、I PSの実践者のみなさまや全国から関心や期待を寄せてください、地域のみなさま、たくさんの方々の応援や期待、サポートを感じながらこの日を無事迎えることができました事に大変感謝しています。

I PSの実践をお伝えすることは、自分らしく生きたいと、希望や夢を寄せてくださった多くの利用者の皆さんとの生き方そのものをお伝えする事でもありました。自分らしく、夢や希望に向けて過ごすことの豊かさを、今回少しでも皆さんに基にお届けできていたらうれしいです。

（香田 真希子氏）

I PSがもっと全国に普及していく
つて欲しいです。
I PS大会に参加した感想

あすなろの皆さま、岡山チームの皆さまに感謝です！当事者の体験談はぜひ続けてほしいです。

座学は少なめにして、参加者が態度変容を伴うようなワーク中心の研修形態が望ましいです。

（香田 真希子氏）

しかったです。

分科会では、「動機付け面接のいろは」を担当させていただきました。動機付け面接を活用したワークを行い、スタッフの雰囲気やご対応、シンポジウムや基調講演など、暖

IPS全国研修岡山大会 開催報告～Part 2～

かな雰囲気があり、とても良かったです。精神的な困難があつても、自分らしく生き、自分らしく働くことが、どんな場所でも叶うといいなど願いを新たにしました。

分科会を行った感想

「職場開拓のスキル」を開催させて頂きました。日ごろから実践される方が多かつたこともあり、活発にマニアックに意見交換出来た様に思っています。日頃、一人のESとして職場にいるため、開拓に関する相談がしづらいと感じることもあるのですが、この機会に私も多くの事を学ばせて頂き感謝しています。ありがとうございました。

IPSへの思い

関心のある事や得意なことを職業にしたいと願う事・自分で決めて進んだり引いたりすること・経験の全てが糧になること・人は常に変化し成長していること……どれも「くごく当たり前の事かなあと思います。それをストレートに応援できるIPSのやり方は性に合っていると感じています。とはいっても、悩むこともたくさんあります。これからも多くの仲間や、自分らしく歩み続けるユーヤーのみなさんと切磋琢磨しながらなんばろうと思います。いつも応援して下さる方々に深く感謝いたします。

(池田 真砂子氏)

IPSと偶然出会ってから約八年になります。IPSは良い」と思うばかりではなく、IPSを忘れた支援をしていたり、IPSに疑問を持つたりと糾余曲折がありました。これからもうかもしません。私の心はコロコロ転がるのです。だからこそ、今回のようない機会で学び直し、全国の実践家から刺激を貰って、「やっぱりIPSは良い」と足元を確認する行為が重要だと再確認できました。

分科会を行った感想

発達障害への関心は引き続き高く、多くの方にご参加いただきました。

それなのに、伝えるのはいつも難しいことで、お客様に申し訳なく、悔しい気持ちが残ります。IPSの実践で戸惑うことは私自身が経験しています。しかし、IPSは机上の空論ではなく極めて実践的で、その目指すところがリカバリーであるように、IPS自体もプロセスであり、個人や組織、地域の実情や制限に合わせ



ユースキャリアセンターフラッグ
施設長 柴田泰臣氏

ができるところからスタートして、試行錯誤で磨き上げていいのだという希望や可能性を少しでもお客様に感じ取っていただけたことを願います。

IPSへの想い

横文字だけで気取って見えたり完璧主義だと思われたり、何かと誤解を受けやすいヤツです。その分、その良さを知ってしまうと愛さずにはいられないヤツです。

大会の振り返り、次大会への期待

今回の構成は、非常にバランスの良いものであつたと感じました（お世辞ではなく）。

改善点があるとすれば、青いスリッパが男性には小さかったことでしょうか。

分科会のお客さんに質問してみたところ、実践家というよりは実践前の方が多かつたことから、たとえば次のようなアイデアはいかがでしょうか？

① IPS初心者向け・IPSの魅力を本人、雇用主、支援者らの事例で存分に伝える。

② IPS導入検討者向け・導入ノウハウを詳細に。ファイデリティ項目の説明なども。

③ IPSについて（アンチも含めて）語りたい人向け・本音座談会。朝まで生テレビ的な。

お客様の立ち位置によってニーズが変わるように思いました。課題別というよりは「IPSへの関わり度別」というイメージです。言うは易し。やるとなると課題があるのは承知ですが、あくまでアイデアです。

「第5回IPS全国研修 in 岡山」

では、多くの大会スタッフに支えられ、無事終えることが出来ました。また、講師の先生方の講演や分科会は大変興味深く、多くの学びと、改めてIPSの魅力について確認することが出来ました。次回は、大阪大会です。皆さんにお会いできる」とを楽しみにしています。



『たまりば研修会』

開催報告



一月十四日（土）、岡山市民会館において「自分らしく働く、働き続けるための研修では、遠くは県外や県北から、百名近くの方々の参加がありました。

講演では、九州産業大学の倉知延章先生より「障害者の就労支援の現状及び職場定着支援の課題と展望について」お話を頂きました。

就労支援の現状について、障害者の雇用状況は右肩上がりで、過去最高を更新。法定雇用率の上昇やハローワークの雇用支援策・就労支援事業所の増加等が要因に挙げられました。また、企業の障害者に対する合理的配慮の義務化及び障害者差別禁止法の制定により、障害についてきちんと伝えて配慮を受けることで働きやすい職場環境が得られ、その提案やご本人の権利擁護活動を行なうのが支援者の大きな役割になるとの

ことです。どうすれば働けるのかを考え、その人が持っている力を精一杯発揮できるような職場環境を作る為に、仕事の仕方を職場に伝えていく。まずは働きがいのある職場を見つけること、ご本人のリカバリーや自信も大事なポイントとなるとの事でした。定着支援の一つとして「たまりば」はとても有効であり、仲間同士で支え合える場に加え、個別の支援につながれば、果たす役割は大きいと話して下さいました。



Sさんは、職場に「障がい」について詳細を伝えず勤務を続けられていて、その中での不安や迷いを「たまりば」で仲間やスタッフに話すことで安心を得られているそうです。

「当事者にとって家だけではなく、色々な場所に自分の存在を認めてもらえる居場所があることはありがたい」との言葉がとても印象的でした。

桐山さんは就労継続支援A型事業所を利用されながら、一般就労の就職活動に取り組む中で「たまりば」

困った時には支援者も一緒に考えてくれる「相談場所」として、今後の「たまりば」の可能性を更に広げて行くためのエッセンスを頂きました。

加藤さんは、「[たまりば]は自分自身も働く一人の人間として、メンバーの皆さんからの様々ななお話を通じて【働く】ということを学んでいます」とお話しされています。

どなたのお話しからも、【働くことや働き続ける】ためには、自分一人で頑張るのではなく、働く喜びや苦しさを分かち合える仲間の存在や、安心して立ち寄ることの出来る居場所の存在の必要性を改めて感じた時間となりました。

「自分らしく働く、働き続けるための私たちにできること」として、思いや希望などを伝えて頂きました。

Sさん、桐山さん共に、「たまりば」の充実、仲間づくりの場の一つとして活用しておられます。

川上さんからは『たまりばに期待すること』として、「いつもいつも支援用されており、利用の目的は様々だという事を改めて感じました。

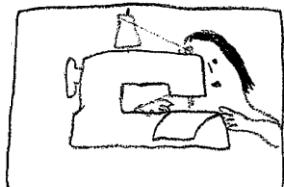


でも仕事の相談をされていったそうですが、また、苦手だと感じている人とのコミュニケーションの場としても活用されており、利用の目的は様々だという事を改めて感じた時間となりました。

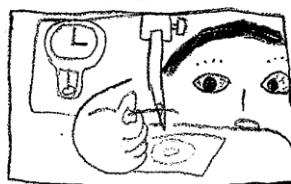
投稿・募集
コーナー



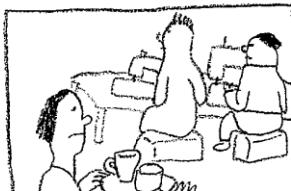
寝る時間がないて



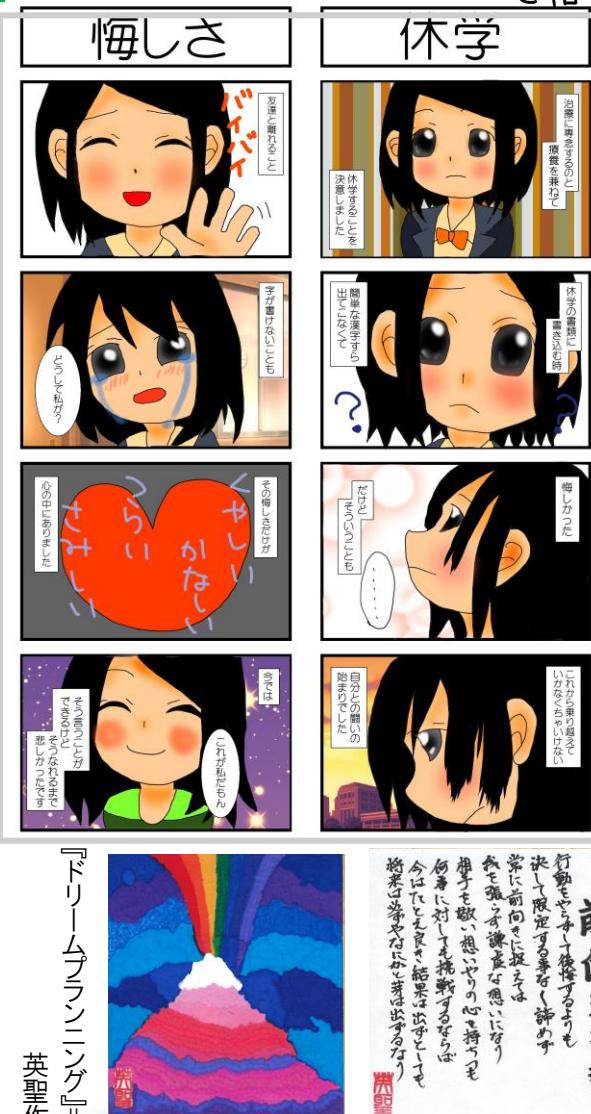
徹夜をよくして
いたし



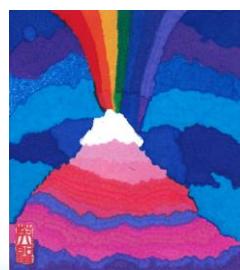
気を遣つていた



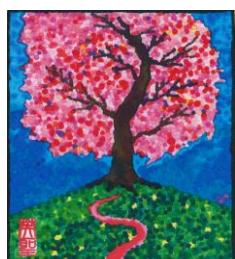
それでおかしく
なったの
かな…?



『ドリー・ムアランニング』
英聖作



『春爛漫2017』英聖作



空を見上げる。
空を見上げる。

今日も私は生きている。

私は空を見上げる。

五月の晴天。

初夏の様な
真っ青な青空を。

私は今日も生きている。

それだけで

充分じゃないか。

Meri

(前回からの続き)

藤井健喜

古樂日和
こがくびより

つまり無限が存在するとすれば、それはまさに神の領域の話なのだ。だからもし無限ができるのだとしたら、それはすなわち神も定義できるということになる。そして定義できるということは、わたしたち人間がその定義に従つて、思いのままに扱うことができるということだ。となると神といふものは、人間が思いのままに扱うことのできる存在なのだ、ということになる。果たしてそんな存在を、人間は神と呼ぶであろうか。決してそうは呼ばないだろう。それではまるで主人に忠実な召使である。

それもあって中世ヨーロッパにおいてカトリック教会は、数学をはじめとする自然科学を敵視したのだと思う。しかし数学というものが、無限について考える学問だとすれば、数学はむしろ教会の教えや神学といったものと仲が良かったと考える方がしつくりくる。カントが神学・自然科学の双方に精通していたとしても何ら不思議はない。

だが神を定義すればその時点では神は神でなくなってしまう。けれども神が定義できないとすれば、無限も定義できないことになる。ところが数は無限に存在する。こうした事柄に数学はどういう答えを出すのか。

こんなことを考へていて、実は数学というのは非常に面白い学問なのではないかと思えるようになってきた。ものは考えようだ。これで少しは数学に対する苦手意識が減ってくれればと思う。

第52回 あすなろ家族の会 交流会開催しました★

三月一八日(土)あすなろ家族の会交流会を開催しました。一〇名の(+)家族が参加をされ、田口ひなの悩みなどを語り合いました。内容としては「子どもが障害を持つていることで自分を責めてしまった」「家族の助けも得ることができなくて自分で抱え込んでしまって」「他の方はどうのうに乗り越えてきたのだろう」と等思いを伝え合いました。

参加者から「子どもは子どもの人生があるし、親も親で人生がある。自分の人生を楽し

まなくちゃや。」「辛いときは泣いてもらおう」「私も親が子どもためになんとかしなくちゃとずっと思っていたが、子供は意外としつかりしている。距離をとつて信用してあげることも大切。」「今は子どもと一緒に色々なことを楽しめている。ケセラセラで…」「かならず良い時が来るはず。子供がきっと自分で決める」「親も子も開きなおることで世界が広がる。子供のおかげで沢山のことを知ることができた」「子どもは親の幸せが一番うれしい」など経験してきた家族から、今悩まれている家族へ言葉をおくる場面もありました。二八年度の最後の交流会も終わり、改めてこの会の温かさと意義を感じました。

三月二九日(水)役員で集まり、二八年度の振り返りと二九年度に向けての計画を話し合いました。今年度も例年同様六月の一七日(土)に総会を開催予定ですので、多くの参加者をお待ちしています。

ジョブサポートセンターあすなろに参加する『メンバー企画』というプログラムがあります。今回は、みんなでラウンジに行きました!!

現地に着き次第、解散。メダルで遊べるゲームをする人、自分の好みのゲームを探す旅に入る人、カラオケをする人：みんな思い思いの時間を過ごしました。最後は、なぜかみんな釣りゲームに集結！全員が一心不乱に釣竿を振り回す姿は、なかなかの光景だったのではないかでしょうか…?ちなみに私は、釣竿を振り回しきて翌日筋肉痛になりました。春休みシーズンだったので店内や送迎のバスは込み合っていましたが、楽しめて良かったです。



あすてっぷ

山ボランティアに行きました！

三月一九日(水)、畠久田で山の管理をされているボランティアさんのお手伝いに行ってきました。「畠久田の細道アルバス」と呼ばれるその山は、かつて植林なども盛んで、山の中にバスを通す計画などもあったそうですが、現在は管理の手が回り切れず、やや荒れた場所も目立ちます。しかし、地元の方々の努力により山が蘇ります。今日はそんな熱い想いを抱いた山の愛好家さんたちのお手伝いです。

まずは、お土産のお花見団子を配つてご挨拶。

ボランティアさんたちも、山で採れたヨモギで作つたお餅や手作りのパン、美味しいお漬物などを振る舞つてくれました。



参加された方からは、「ゲームセンターにみんなで行くと楽しい！また行きたいい！」「こういった企画が毎月あつたらいいな」となど、好評な声が多かったです。次回のメンバー企画も乞うご期待！！

『私をいたわるお茶とお菓子の会』開催

あすなろ福祉会がある表町商店街では、商店街の店舗が少人数制のゼミを開催してお客様との繋がりをつくることを目的に春と秋に「まわせやまち」を開催しています。私たちもその一員として、地域の方と繋がりたいという思いからあちゼミにて講座を開催しました!あすなろ福祉会からは『私だけの絵画を作ろう!』と『私をいたわるお茶とお菓子の会』の二講座を開き地域の方に参加して頂き、交流の時間を持つことができました!

『私をいたわるお茶とお菓子の会』では三月二二日(水)三月二九日(水)に開催しました。うれしいことに、前回(昨年秋の初開催)のじ参加からのリピーターとして参加してくださった方も数名おられ、「再会」を喜ぶ場面もありました。

はじめに「あなたが大切にされていると感じるときはどんな時ですか?」という問いを投げかけ、皆さんから「うなずいてくれる」と「反応が返ってくる」「嬉しい合いになったとしても、やのあと受け止めてくれる、切つても切れない関係性」などなど、皆さんにとって「大切にされている」という感覚」を分かち合いました。その安心できる雰囲気を大切にしながら、さらに「みなさんにとっての自分らしくられる元気のアイテム・対処法」について「いい感じの日常の過ごし方」などを一緒に伝えました普段は走り抜けるように日々を過ごされている皆さんにとって、この会にじ参加する中には「毎月開催してほしいな~」という大変うれしいお言葉もいただきました。また、次回開催をどうぞお待ちください!



4.5 ぱる×MOMO
In 旭川河川敷
BBQしました♪

あすなろ各事業所で
お花見しましたよ!



4.4 ものづくり
in 熊野神社
芝さんの鉄板焼きで皆
大満足!



4.4 ジョブサポ
In 半田山植物園
ジョブにて弁当をつくり桜を見ながら食べましたよ♪



4.3 あすてっぷ
In 旭川河川敷
BBQしたよ★



INFROMATION

4月の予定

4月

| | | |
|----|---|--|
| 14 | 金 | ソフトボール 13 時 |
| 15 | 土 | |
| 16 | 日 | |
| 17 | 月 | |
| 18 | 火 | PC講座 10 時 |
| 19 | 水 | WRAP10 時 |
| 20 | 木 | |
| 21 | 金 | |
| 22 | 土 | お抹茶サークル 11 時 カラオケサークル(グレートパンプキン集合)13時 |
| 23 | 日 | |
| 24 | 月 | |
| 25 | 火 | 健康講座「体育館」10 時 卓球サークル 13 時出発 |
| 26 | 水 | |
| 27 | 木 | |
| 28 | 金 | ソフトボール 13 時 つどい 13 時 30 分 |
| 29 | 土 | |
| 30 | 日 | |

5月

| | | |
|---|---|-------------|
| 1 | 月 | |
| 2 | 火 | ぱるカフェ 13:30 |

3日～8日はぱるお休みです。

※プログラム・サークル活動に参加希望の方はご連絡をよろしくお願ひします。

※日程が変更になることもありますのでご確認ください。

- 発行:社会福祉法人あすなろ福祉会
- 〒700-0822 岡山市北区表町 3-7-27
- 編集:ぱる・おかやま
- TEL:086-201-1720 FAX:086-201-1713
- E-mail:pal-oka@mx35.tiki.ne.jp
- ホームページ:<http://asunarofuku.jp/>

22日(土) お抹茶サークル

場所 ぱるおかやま

時間 11 時

参加費 100 円

お菓子とお抹茶を楽しみ

ませんか？気軽に参加してね★



25日(火) 卓球サークル

場所 障害者体育センター

時間 13 時 30 分 現地集合

(13 時あすなろ出発)

一緒に汗を流しませんか？



5月2日(火) ぱるカフェ

場所 ぱるおかやま

時間 13 時30分～

5月と言えば柏餅！



食べながらのんびりおしゃべりしませんか？

クローバー

ピア電話相談

| | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| AM | ○ | × | ○ | ○ | × |
| PM | × | ○ | ○ | ○ | × |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| AM | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| PM | × | × | × | ○ | 休 |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| AM | ○ | ○ | ○ | × | × |
| PM | ○ | 休 | ○ | × | × |

ピア電話相談とは

「ピア（peer）」とは、「仲間・対等」という意味。ピアセンタークローバーでは、同じ病気の体験をした仲間たちが、自分の経験をもとに、同じような悩みで困っている方々を支えていくピアサポート活動を行っています。気軽にお電話ください！

午前 10 時～13 時

午後 13 時～16 時

ピア電話相談

086-201-1719

来所相談も行っております。
ご相談ください。



～皆さまへお知らせ～

いつもぱる通信を愛読いただきありがとうございます。29年度より、ぱる通信は春号(4月)・夏号(8月)・秋号(11月)・冬号(2月)発行となります。なお、あすなろ福祉会のホームページには各事業所の予定表やイベントのお知らせ等、活動報告を随時更新していくのでご覧頂ければ嬉しいです。今後共よい通信になるよう心を込めて制作していくので、どうぞよろしくお願い致します。あすなろホームページアドレス：<http://asunarofuku.jp>